

門真市新体育館建設基本構想

■ 基本コンセプト

**誰もが身近に利用しやすい
生涯スポーツ推進拠点**

生涯スポーツの推進

- 健康づくりからスポーツ・レクリエーションに至るまで、多様な生涯スポーツの活動拠点
- 訪れやすく、広範な市民に身近な施設

地域コミュニティの醸成

- スポーツを通じて地域の連携や協働を深めることができる場
- 市民が積極的に関われるソフトプランニング

地域の景観づくり

- 地域の景観づくりの先導、まちづくりの核
- 都市イメージを高める景観・デザイン
- 地域性を具現化したデザイン

■ 体育館部門整備方針

市民誰もが多様なスポーツ・運動に親しめる場

- 種々の競技スポーツ・健康づくりに取り組める参加者主体の施設
- サークル・団体などの地域ネットワークの構築とその強化・活性化
- 指導者や総合型地域スポーツクラブの育成・支援

■ 付帯部門整備方針

幅広い交流を育む、市民に身近な憩いの場

- 幅広い世代の交流を生み出す人づくり支援
- 気軽に立ち寄れる憩いの施設
- 子育て世代が利用しやすい施設

■ 配慮すべき事項

アクセス
動線

景観

防災

環境

その他

■ 諸条件の整理

■ 新体育館建設予定地の敷地条件	
敷地面積	約 5,400 m ²
用途地域	第2種住居地域
建ぺい率	60%
容積率	200%
許容建築面積	約 3,240 m ²
許容床面積	約 10,800 m ²

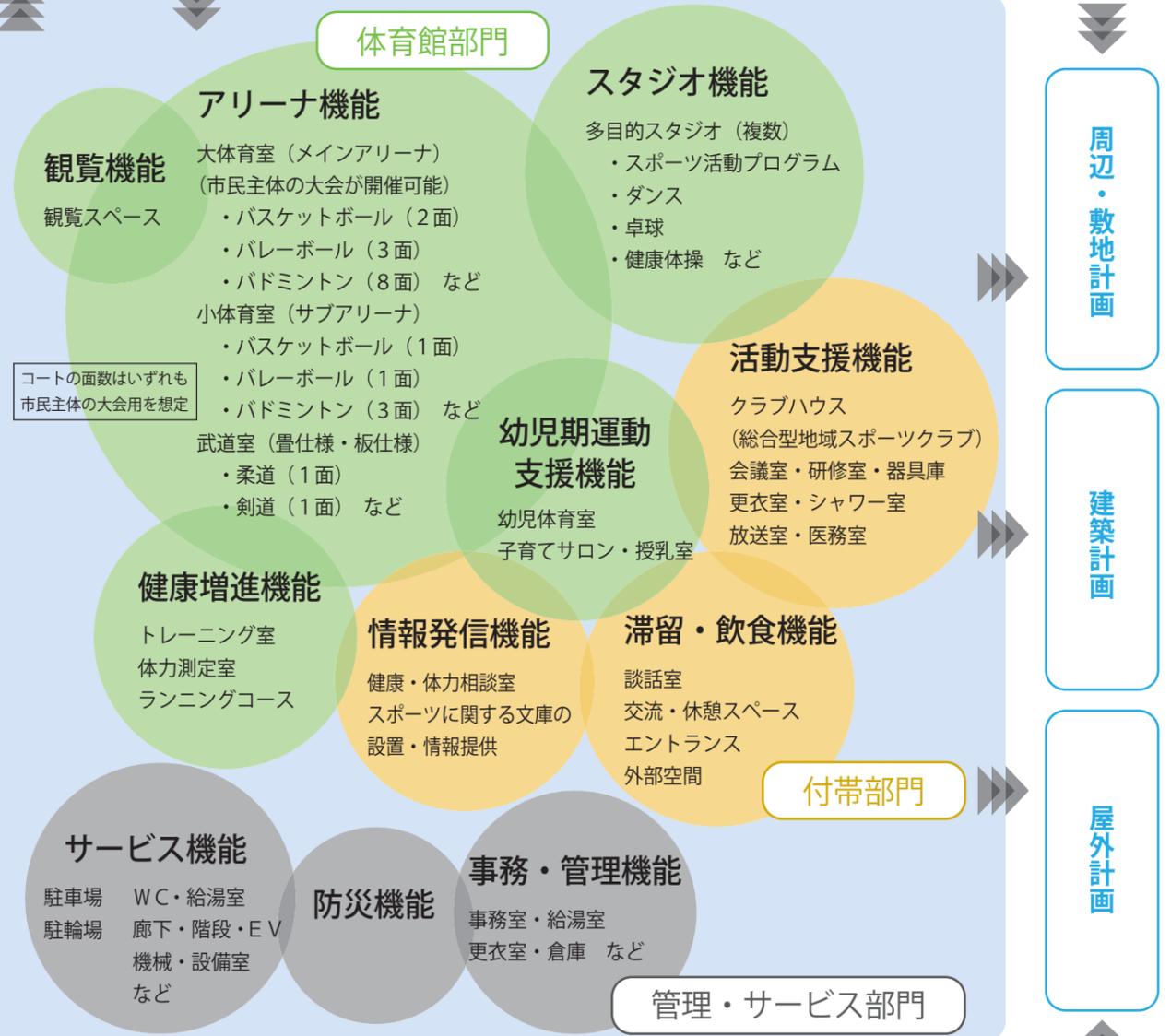
■ アンケート調査による機能の整理

- (1) 個人利用の推進
- (2) 市民主体の大会のサポート
- (3) 子どもの体力づくりの推進
- (4) 利用しやすさの向上
- (5) 多世代交流の推進



■ 導入機能の設定

- **アリーナ機能**
 - ・市民利用を主体としたスポーツ活動の場
 - ・市民主体の大会のサポート
 - ・市民が生涯にわたり、主体的にスポーツ・健康づくりに取り組めるソフトの検討
- **スタジオ機能**
 - ・総合型地域スポーツクラブの育成・支援とあわせた多様なスポーツ・健康プログラムの企画・運営
 - ・個人利用を促すハード・ソフトの検討
- **健康増進機能**
 - ・健康増進のため、市民が個人で気軽に利用できるハード・ソフトの検討
- **観覧機能**
 - ・見て楽しむ観点からの個人利用の促進、スポーツ活動の発信
- **幼児期運動支援機能**
 - ・子どもが自由に体を動かして、楽しみながら体力づくりができる場
- **滞留・飲食機能**
 - ・市民に身近な憩い・交流の場
 - ・地域の人づくり支援の核となる場
- **活動支援機能**
 - ・生涯スポーツ推進のための活動支援
 - ・総合型地域スポーツクラブをはじめとする団体の育成・支援
- **情報発信機能**
 - ・地域ネットワークの構築・強化



■ 施設整備において配慮すべき事項

- **アクセス・動線**
 - 安全・快適な歩行者・自転車・自動車動線の確保
 - 古川橋駅前ゾーンなどとの連携・回遊性の向上への配慮
- **景観**
 - 周辺公共施設と調和した施設のデザイン
 - 緑による良好な景観の形成
 - 周辺からの見え方への配慮
- **防災**
 - 地震・水害などの災害に強い建物構造
 - 災害時のライフラインの維持
- **環境**
 - 周辺公共施設と連続性のある緑・うるおい・憩いの創出
 - 環境配慮や低炭素社会に向けた先進的な施設として整備
- **その他**
 - ユニバーサルデザインの導入
 - ライフサイクルコストの低減
 - 地域経済の活性化
 - 市民の積極的な運営参加

■ 整備計画モデル

□ 周辺・敷地計画

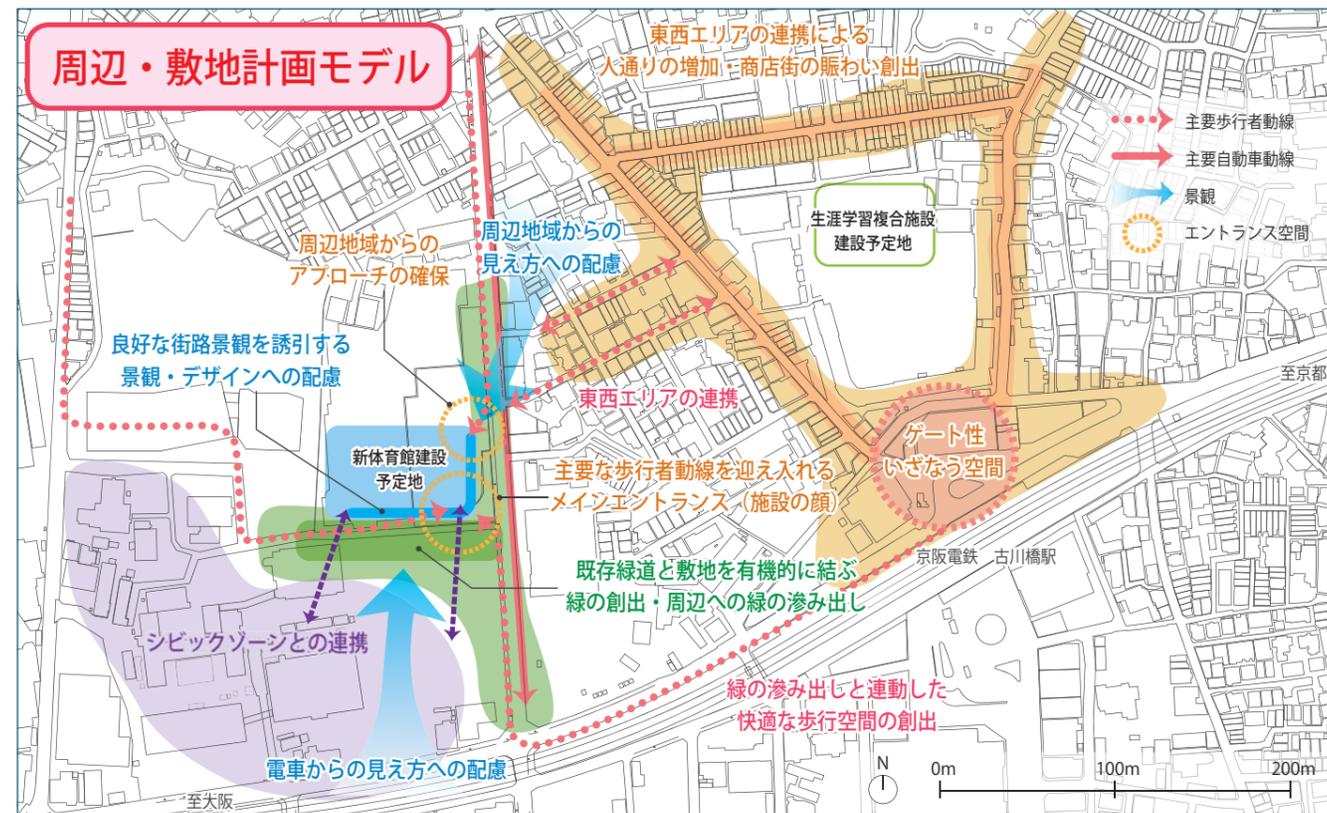
- ・古川橋駅、門真市駅、周辺地域からのアクセスに配慮し、シビックゾーンと古川橋駅前エリアの連携を視野に入れた計画とすること。
- ・シビックゾーンとの連続性および一体的な利用を検討すること。
- ・周辺地域、道路、および電車からの見え方に配慮し、地域の良好な景観形成を先導するデザインとすること。
- ・地域性や周辺環境との関係性に配慮した計画とすること。
- ・施設と外部空間の連続性・一体性を確保した計画とすること。
- ・気軽に立ち寄りたくなる環境づくりを行うこと。

□ 建築計画

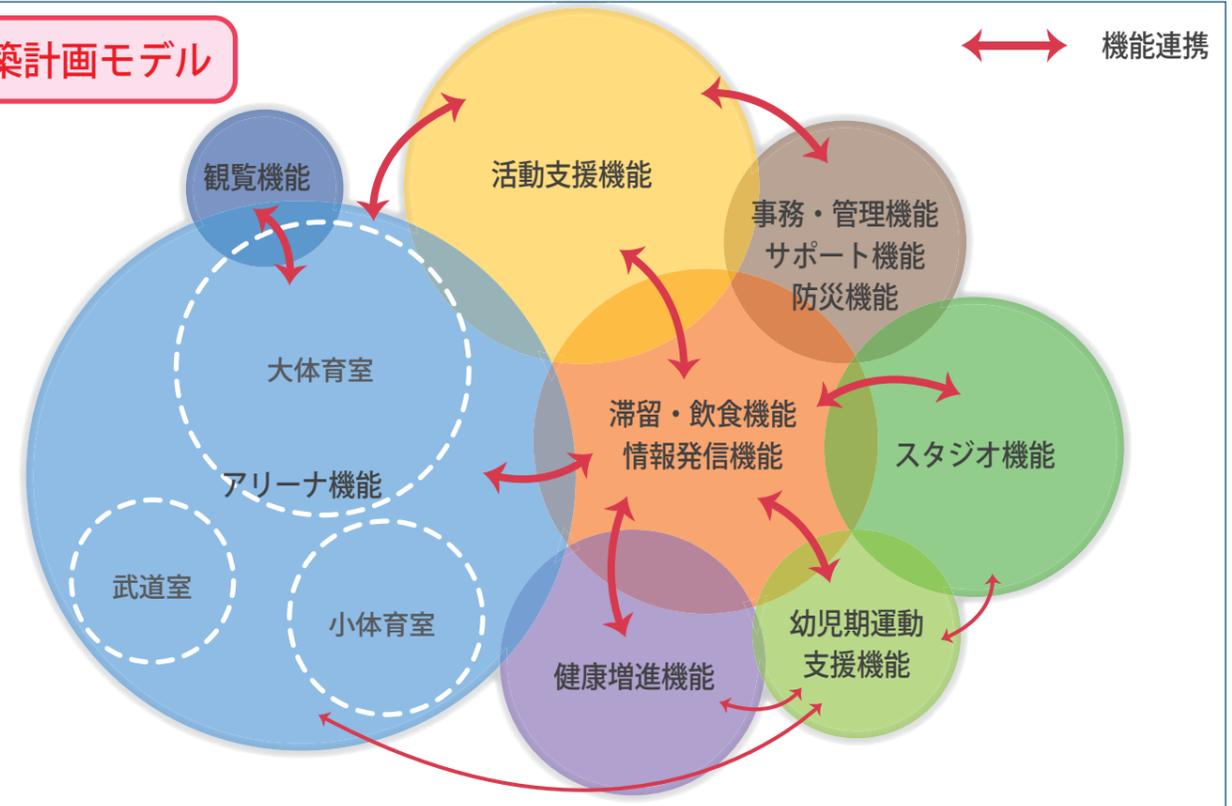
- ・都市の将来像を先導するような上質なデザインとすること。
- ・だれもがわかりやすく使いやすい機能構成・配置・動線計画とすること。

□ 屋外計画

- ・歩車分離など適切な各種動線計画とすること。
- ・周辺の緑の活用、うるおいの創出など良好な景観形成に配慮すること。
- ・動的なゾーン（運動など）と静的なゾーン（休憩など）を適切に配置すること。
- ・屋外での運動の場（ランニングコース、健康遊具など）を確保すること。



建築計画モデル



■ 管理運営・施設整備に向けた検討

□ 管理運営体制

(1) 運営手法の動向

市の直接実施や指定管理者制度の導入など。

(2) 民間資源の活用

効果的・効率的な施設の管理運営のため、民間企業の資源（ノウハウなど）の活用を視野に入れた検討。

① スポーツ関連企業

スポーツ製品メーカーや民間スポーツクラブによる指定管理者の事例が見られ、「専門性の高いスタッフの配置」や「スポーツ教室などの開催」、「地域との連携」などが行われている。

② 総合型地域スポーツクラブ

「新しい公共」として、総合型地域スポーツクラブを拠点とした地域住民の主体的な取り組みの発展が求められている。

③ スポーツ団体（協会など）

提供サービスの内容は、団体によって様々であるが、地域密着型の管理・運営が期待される。

(3) 管理運営の基本的な考え方

- 民間資源の活用によるサービスの質の向上と管理運営の効率化。
- 地域の団体などとの連携や地域のネットワークの活用による市民利用の促進。
- 利用実態・ニーズに応じたプログラムや利用方法の整備による継続的な利用の促進や施設の高効率利用。

□ 整備スケジュール

- 平成25～26年度 基本設計、実施設計
- 平成26～28年度 建設工事、外構工事
- 平成28年度 開設

□ 概算事業費・管理運営費

- 概算事業費
今後の財政状況などを踏まえ基本設計・実施設計の中で具体的な検討を行う。
- 管理運営費
管理運営費の縮減に寄与する建設工事・施設整備・管理運営手法の検討。